

第6回身寄りがない方への意思決定支援研修会

講演：『患者本人と疎遠な家族との関わり方を考える』

～ナラティブアプローチ～

講師：琉球大学病院 地域・国際医療部 臨床倫理士 金城 隆展 氏

○日時：令和6年2月5日（月） 午後7時00分～9時00分

○場所：沖縄県医師会・3階ホール

○参加者：42名

【目的】身寄りがない方（家族や親類へ連絡がつかない状況にある人、家族の支援が得られない人含む）が、人生の最終段階においても安心して必要な医療・介護が受けられる地域を目指し、事例に対する考え方についてナラティブアプローチを学ぶ。

【対象】那覇市内医療・介護従事者、行政等

【考察】今年度最後となった第6回身寄りがない方への意思決定支援研修会のアンケート回収率は初の100%であり、参加者全員が参考になったとの回答があった。また、参加者の約半数は看護師が占めていた。参加者より、「外科ではよく手術に向けてのICに立ち会う場面が多いが、いつの間にかキーパーソン病になりかけていた自分がいた」など、知らないうちに患者本人を置き去りにしている現状があったが、研修会を通して「患者さんを知ろうとすること、思いを知ることが大切である」、「家族＝キーパーソンだけではない、患者さんの声に耳を傾け、患者さんの“人となり”を知り、本人の希望は何か？諦めないことを大切にしていきたい」などの感想があり、非常に良い学びになったと思われる。また、「本日の学びを職場の皆に少しでも伝えていきたい」、「この研修会を定例化し、受講経験者はファシリテーターへ移行し、さらに周知、獲得されるナラティブアプローチ技術になることを希望します」という感想もあり、この研修会を通して“自らの最大限の倫理の範囲”を広げ、また医療・福祉・介護の“真の多職種連携の可能性”を拡大していけるようになれば幸いである。



講師：金城 隆展 氏



司会：嘉数 朗 氏



グループワーク発表



身寄りがない方への意思決定支援研修会 ～ナラティブアプローチ～

主催：那覇市在宅医療・介護連携支援センター ちゅういしー那覇

令和5年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業

第6回 身寄りがいない方への意思決定支援研修会 ～ナラティブアプローチ～

日時：令和6年2月5日（月） 19時00分～21時00分

場所：沖縄県医師会・3階ホール

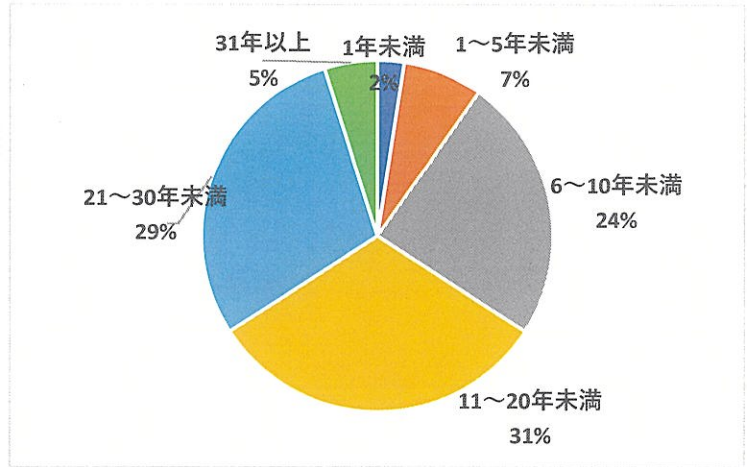
講師：琉球大学病院 地域・国際医療部 臨床倫理士 金城 隆展 氏

参加者：42名

回答者：42名（約100%）

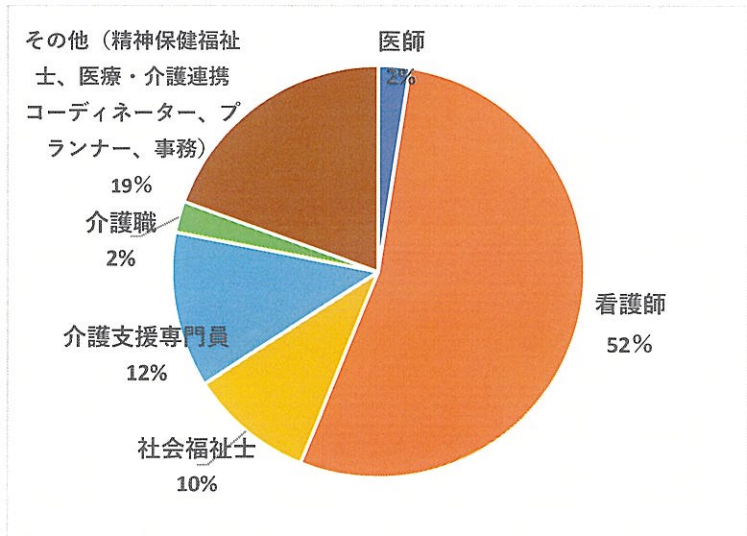
経験年数

選択肢	数	割合
1年未満	1	2%
1～5年未満	3	7%
6～10年未満	10	24%
11～20年未満	13	31%
21～30年未満	12	29%
31年以上	2	5%
無回答	1	2%
計	42	100%



問1. 職種について教えてください。

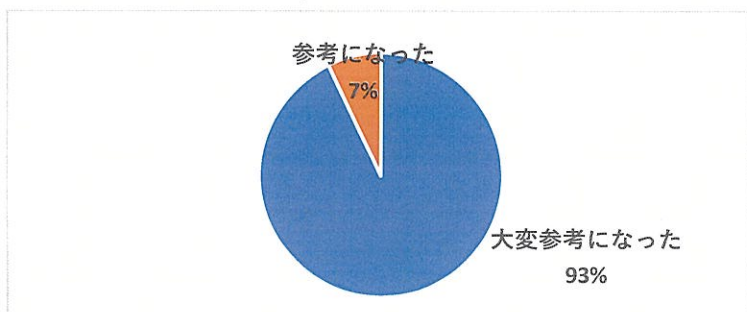
選択肢	数	割合
医師	1	2%
看護師	22	52%
保健師	0	0%
社会福祉士	4	10%
介護支援専門員	5	12%
介護職	1	2%
行政	0	0%
その他（精神保健福祉士、医療・介護連携コーディネーター、プランナー、事務）	8	19%
無回答	1	2%
計	42	100%



問2. 『患者本人と疎遠な家族との関わり方を考える ～ナラティブアプローチ～』

（臨床倫理士：金城 隆展 氏）は参考になりましたか。

選択肢	数	割合
大変参考になった	39	93%
参考になった	3	7%
まあまあ参考になった	0	0%
あまり参考にならない	0	0%
計	42	100%



問3. グループワークはいかがでしたか。また、全体を通してご意見・ご感想等をお聞かせ下さい。

- ・日々の業務で、ここまで深く考えることはなかったため、とても刺激的でした。家族構成や身近な友人などをもっと意識的に観察して、より良い関わりに繋げていきたいです。
- ・色々な考え方を知る良い機会となった。
- ・職種による様々な意見が聞けて、とても良かったです。今後も身寄りのない方と関わる機会が増えていくと思われるため、本日の内容を参考にしていきたいです。
- ・すごい勉強になりました。明日から働くことにワクワクしています。
- ・色々な職種の方と話し合い、貴重な意見を聞くことが出来て面白かったです。今回の研修を通して普段の仕事を振り返り、自分は患者さんの話を本当の意味で聞いているか、改めて思い返す機会になりました。
- ・「患者さん中心」という基本的な視点を改めて学ぶことが出来た。専門職同士が互いに尊重しながら、本人の幸福を優先していくという考え方を学んだ。
- ・外科ではよく手術に向けてのICに立ち会う場面が多いのですが、いつの間にかKP病になりかけていた自分がいました。今回の研修を受けて改めて自己決定の大切さ、本人の意思の尊重について考える機会となりました。ありがとうございました。
- ・大変学びの多い研修でした。「最低限の倫理」「最大限の倫理」最大限をいかに伸ばすか、患者中心に物事を考えていかなければいけないと強く感じた。この学びを職場の皆に少しでも伝えていきたい。ありがとうございました。
- ・どん兵衛10分おいてみます。ACPは雑談という言葉が刺さった。最大限のアプローチを考えながら仕事をしたいと思った。ケアマネが出来るとワクワクした。
- ・色々な事例を通して多職種の方と話すことで見えてくる発見があり、とても良い時間となった。「スキルではなく態度！＝相手を理解することで問題とせず解消していく」患者さんを知ろうとすること、会話すること、思いを知ることが大切であると改めて思いました。
- ・患者さんを中心に考えていく。最大の幸福を皆で考えていきたいと思いました。
- ・いろいろ考えさせられる場面を提供していただき、とても勉強になりました。ともに歩いていける支援者になれるよう、頑張っていきたいです。
- ・退院支援看護師、ケアマネジャーなど多職種の様々な意見が出ました。日頃忙しい現場に追われ振り返る時間がない中、グループワークで患者さん（利用者）の最大限の幸福について再確認することが出来ました。
- ・グループワークの構成も良く、事例を通して支援方法の検討が出来て、多職種の意見が聞けてとても良かったです。金城先生の理論を聞いた上の実践をしていかないと途中で患者さん主体がブレてしまうと思います。今日は本当にありがとうございました。
- ・様々な意見や視点を学ぶことで、とても参考になりました。
- ・グループの意見を聞くことが出来たので良かった。このような形で意思決定支援が出来たら良いなと思った。

第6回 身寄りがない方への意思決定支援研修会 ～ナラティブアプローチ～

- ・グループワークがあると思っていなかったのが、逆に楽しめました。
- ・患者本人の意思を中心に、キーパーソン病にならないように、家族＝キーパーソンだけではない、側近の患者さんの思いを組める・推測できる人がキーパーソン、本人の希望は何か？諦めないことを大切にしていきたい。改めて考え、思い出すことが出来ました。
- ・患者を置き去りにしないことが大切であり、幸福とは？本人が何を望んでいるのか？医療者はしっかり見極めてアプローチすることが大切だと思いました。（最大限の倫理を果たす）KPは家族とは限らない、近くで良く知って理解している人を見つけ出し話を聞くことが大切であり、家族との向き合い方のバランスが大切だと思いました。人生の分岐点でしっかりコミュニケーションをとること、多職種でそれぞれの役割を果たすことが良い結果に繋がると思う。ACPは本人のことを知る雑談をしていくことが大切だと思いました。Paの物語を見て自分が変わることが必要だと、しみじみ思いました。色々考えさせられました。
- ・いろんな職種・経歴の方がグループにいて、自分では思いつかないような意見が聞けてとても参考になりました。また、こんな機会を設けて下さい。「本人の思い」を一番にして、寄り添っていければと思います。
- ・スピリチュアルに通じるものを感じました。
- ・グループワークでは、自分では浮かばなかった視点があったりと様々な方の考えを聞くことで、いろいろなアプローチの方法を得ることに繋がりました。
- ・色々な意見を聞き、考える事ができ大変参考になりました。もっともっと患者さんの声に耳を傾け、患者さんの“人となり”を知りたいと思いました。私も患者さんにとって必要な「杖」になりたいと思います。
- ・患者様への関わりをとっても考えさせられました。末期の利用者へのアプローチを私自身あまり受けたことはありませんが、想像を働かし、後悔のない関わりをしなければならぬと思いました。家族もKPですけど、友人もKPになる。
- ・いろいろな職種の方と話しが出来て、違う視点で考える事が大事だと感じました。グループワークで各グループの話しを聞いて、さらに深く考えることが出来ました。患者を置き去りにしない支援をしていきたいです。ありがとうございました。
- ・事例検討ではあるが、様々な職種の方と患者の最大限の幸福について話し合うことができ医療職の良さを改めて気付くことが出来た。
- ・他の方の意見もお聞きして、その様な見方や考え方があるのかと参考になった。事例の中でケアマネジャーの人が不安になっている部分を連携に繋げていくか、患者中心の話をするようになれば良いと思います。
- ・いろいろ考える事ができた研修でした。3つの事例・グループワークとも全然答えが違って、回答に興味を持って聞くことが出来ました。最大限の倫理で考える大切さ、他の事にも通じると思いました。学んだことが次に活かせるよう頑張ります。
- ・色々な意見が聞けて勉強になりました。医療現場では、つつい本人置き去りで業務的になりがちです。今回の講演の前から倫理について学んでいた部分はありましたが、改めて深く考えさせられました。

第6回 身寄りがいない方への意思決定支援研修会 ～ナラティブアプローチ～

- ・事例を通して、利用者にとって大事な時期を振り返ることが出来た。グループは皆が意見を話しやすく、色々な話しが聞けてとても楽しかった。事例でケアマネジャーだけを責めるのではなく、多職種が協力することが大切だと話されていたのが、とても良かった。
- ・グループワークも様々な意見が出て大変勉強になりました。患者本人の意思を推定する義務がある。しかし100%推定は不可能、推定する努力・会話のプロセスが大切である。患者さんの幸せは一人一人違うので、教科書に載っていない。本人の意向を探求することが必要。ACP≠終末期だけの話しではない（話し合い、雑談）。ケアマネジャーが経験不足なら誰かが補う、攻めない。
- ・訪問看護師として、利用者さん、家族さん、本人の周りの方々と関わらせていただくうえでの姿勢、態度、考え方について改めて考えさせられた良い機会でした。
- ・グループワークを通して様々な意見を聞き、とても勉強になりました。
- ・いろんな人の意見が聞けて良かった。自分の考えもありなんだとか、そんな意見が出たのかと勉強になりました。専門職がゆえに最低限の仕事だけしかしない人にはならないように頑張ろうと思います。
- ・グループワークのメンバーも多職種ですごく色々な意見を出し習得できました。ぜひ定例化していただき、2～3回受講経験者はファシリテーターへ移行し、さらに周知、獲得されるナラティブアプローチ技術になることを希望します。
- ・いろんな職種の方たちとグループワークが出来て、自分と違う視点に立てた見方が出来たのが良かった。日々の仕事の中で、利用者さんとの雑談も大切に耳をすませ、この方の最大限の幸福を追求する支援者でありたいと思いました。
- ・事例を通して振り返りながら、日々の自分の仕事のやり方や捉え方を考えさせられる良い機会になりました。ありがとうございました。
- ・障がい分野で仕事をしているが、ともするとサービス利用ありきの支援になってしまいそうな所があるので、本人の意思確認・意思の推定の大切さ、そのための関係者間の連携の大切さを改めて感じた。明日からの支援に活かし、最大限の倫理をチームで実現できるよう頑張ります。ありがとうございました。
- ・血より濃い水をしっかり確認できる目を育てていきたいと思いました。
- ・麻薬を使う際には「これから意識が朦朧としてくるかもしれないので、今のうちに大事なことを意思表示しておきましょう」と患者さんへ投げかけていこうと思いました。
- ・過去の事例、個別の経験がグループワーク1～3全体で活かせました。ご本人様、ご家族様の幸福を願って、関われるようになりたいと思います。
- ・グループワークに苦手意識を感じがちですが、今日のグループワークはお互いに情報交換が出来て、そこから見える価値観が共有出来て面白かったです。倫理はよくぶつかる壁です。話しを聞きながら患者が置いていかれる場面が何度も頭に浮かびました。仕事の忙しさに負けて…耳が痛いです。常に患者のために…と思いながら働いていますが、いつの間にか家族側・医療側になっている自分がいて、モヤモヤする事が多いのも現実です。患者・家族の幸福に寄り添える看護を目指したいです。